

《2011年7月例会報告》

ラグビー観戦して飲みに行こう！

第1部 ラグビー観戦

IRB パシフィック・ネーションズカップ「日本代表 vs サモア代表」

【日時・会場】2011年7月2日（土） 秩父宮ラグビー場（最寄駅は「外苑前」）

17:30 入口付近集合・入場

18:10 キックオフ

【参加者】金子正彦、嶋崎雅規、中塚義実、依藤正次

※この他、徳田仁、井上俊也の両氏がそれぞれ別のところで観戦（確認できた方のみ）、村田亙氏がテレビ解説者として競技場にいた。

第2部 懇親会

ラグビー観戦して飲みに行こう！

【日時・会場】2011年7月2日（土） フットボール居酒屋「いなば」（最寄駅は「渋谷」）

20:00頃 三々五々集合

20:30頃 乾杯→自己紹介→あとはただの飲み会

23:00頃 中締め → それぞれの終電まで

【参加者（会員）】阿部博一、金子正彦、北原由、佐藤真成、嶋崎雅規、徳田仁、中塚義実、

【参加者（未会員）】北原グループ=全国高校総体の抽選会を終えた高体連の方々（長野県高体連2名、大阪府高体連1名、東京都高体連1名）、徳田グループ=別で観戦していた方々（スポーツビジネス関係1名、ウズベキスタン人1名、女性2名！）

<参加者からのコメント>

依藤正次（2011.7.7.）

一般にはあまり知られていないのですが、日本ラグビーのスタイルは4Hということになっているんです。4Hとは、早く・低く・激しく・走り勝つの頭文字をとった造語です。今はこの4Hに則って各年代の代表チームがプレーする環境がようやく整ったところです。

この日の日本代表はゲームの立ち上がり、この4Hとは真逆のプレー振りでサモアにあっさりトライを取られてしまったのは残念でした。その後チーム全体の姿勢も低くなり実力差があるサモア相手になんとか大差がつかずに試合を終えたといった印象でした。

また今のカーワン・ジャパンの使命は少しでも世界ランキングを上げることが大前提となっており、その結果、自分達より弱い相手には確実に勝つのですが、自分達より強い相手には確実に負ける

というチームとなってしまいました。そこにラグビーファンが代表チームを応援しにくくしている面が多々あるように思います。

ただ若い年代は確実にレベルもそして意識も変わってきています。

東福岡の藤田選手は、南半球のプロリーグ・スーパー14でプレーすることを目標としていますし、桐蔭を卒業した松島選手は既に南アでプレーしています。彼等が日本代表の中心になるとき、日本のラグビーは確実に変わると思います。

もうちょっと待ちましょう、またこのような機会があれば幸いです。

井上俊也 (2011.7.15.)

トンガ、フィジーに勝利し、初優勝を飾った日本代表でしたが、初戦で唯一の国内試合のサモア戦は勝敗だけではなく不満の残る内容でした。

当方、かつてのラグビー仲間と観戦、サロンの皆様と一緒に観戦できなかったのは残念でしたが、このようにホームページでの感想の公開というチャンスを与えていただき感謝しています。

サモアとはラグビーの世界ランキング2位の差は大きいのですが、負けても勝ってもおかしくない相手でした。これは今回の4か国の勝敗を見てお分かりの通りです。サモアがほぼベストメンバー（ナンバーエイトだけがなぜか来日しませんでした）だったということに感謝です。

不満なのは勝ち負けや絶対的な試合内容というよりは「普段トップリーグを見慣れている人たちから見れば、何でこんなに戦術的にも精神的にもひどい試合をやるのか」ということにつきます。

サッカー界の皆さんならば、1980年代の「読売クラブ」と「全日本（あえてこの表現を使います）」の関係をご存知かと思います。現在の日本ラグビー界はさらに深刻で、トップリーグ14チームのうち、半数は「読売クラブ」クラスのチームです。もちろん、他国で代表経験があり日本代表になることができない外国人選手の存在はありますが、現在の日本代表はトップリーグに加盟すれば中位以下は確実です。

現在の日本ラグビー界にとっての不幸は2点

1. 日本代表が「国内最強ではないこと」

これは、先の読売クラブと日本の例だけではなく、1980年代初めのサッカーのイングランド代表も同様でした。現在のスペイン代表とバルセロナも同じかもしれません。ナショナルチームとクラブチームの構造的な関係かもしれません。

そして、さらに不幸なのは

2. クラブチームでワールドクラスのチームが多数あるのに、「クラブチームの国際試合の機会がないこと」

これはサッカーの影響を受けているのですが、キリンカップで代表チームしか来日しなくなったように、海外から代表以外のチームが来日しなくなりました。（昔はオックスフォード大学とか、ニュージーランドのクラブが多数来日しました）

サッカーの場合、キリンカップからクラブチームはいなくなっても、ACLや夏の親善試合で海外のクラブと多数対戦します。

そう考えるとラグーマンとしては実に不幸な国に我々は生まれてしまったと感じます。

ただ、日本のラグビーの誇るべきところはいくつかあり、競技人口は世界4位、クラブ数は世界1位です。このような良さを代表を頂点とする日本ラグビー全体のパワーにつなげていくことにサロンとしても何らかの貢献はできるでしょう。

中塚義実 (2011.8.5.)

体育の授業でラグビーの指導もしているし、ワールドカップの映像を用いた「ゲームの見方」も指導しているが、競技場でのラグビー観戦は初めてかもしれない。「お出かけサロン」で川崎競馬に出かけた時と同じような、軽い興奮と喜びにあふれた時間だった。

秩父宮ラグビー場はスタンドとピッチが近く、非常に見やすい。それに夕暮れ時で、とても気持ちがいい。けどたぶん雨が降ったりすると逃げ場がないから、見ている人は大変なことになるだろうなあというのが第一印象。

ラグビー専門家の嶋崎さんによる選手目線、指導者目線の解説があったのでわかりやすかった。ほぼベストメンバーで臨んでくれたサモアには「強い！」という印象を持ったが、比較する対象がないので、本当のところはよくわからない。ニュージーランドや南アフリカといった世界のトップを間近で見たらどんな感じがするのだろう。興味がわいた。ワールドカップが楽しみである。

試合後は電車で移動。懇親会会場に着くと北原さんがすでにおり、高体連の先生方と飲んでいる。「サロンの飲み会に行きましょう。変な人がいっぱいいるからおもしろいですよ」とでも言って誘ったのだろう。そういう誘いに乗ってくる方々だから、オープンマインドで、楽しい方が集まっている。徳田さんとともにやってきた不思議な取り合わせの人々とも意気投合し、飲み会は大いに盛り上がった。まさしく「サロンならでは」である。

こういう時間・空間が、次への活力になる。また企画したい。

嶋崎雅規 (2011.8.8.)

久々のJAPANの試合に1万人の観衆の胸は高鳴った。今日はやってくれるだろう。皆がそう思っていた。

その期待は、開始早々でもろくも崩れた。

開始2分でトライを奪われ、前半15分で勝負は決まった。日本にラグビーを根付かせるためには、この期待にこたえることが重要だったのに...

今日はJAPANの勝負所と心得ていたのだろうか。

ただし、日本ラグビーは確実に強くなった。屈強なサモアに対しフィジカルで一步も引かず、互角にわたりあえたのだから。

それは6人の外国出身の選手も含めてのことだが。

しかし、今までの日本ラグビーが守ってきたものは失われつつあるような気がする。

「パスで抜く」 巧みなパスを用いてすれ違いざまに抜いていく技術が。

「低く刺さるタックル」 外国人がいやな顔をした足元に飛び込んでいくようなタックルが。

前半2分、サモアの最初のトライは安易に上に行ったJAPANのタックルミスからのものだった。

J Kの目指す「世界標準のラグビー」に、JAPANは確実に近づいた。しかし、NZと同じラグビーをしていたのでは、永遠にNZには勝てないのである。

「日本ラグビーのスタイル」を確立することが必要ではないだろうか。

今日一番目印象に残ったのは、初キャップのFL西原忠佑の低く鋭いタックルだった。